

2月29日～3月4日  
ひな人形をめで甘酒に舌鼓  
みちくさでひな祭りに合わせて振る舞い酒



町ボランティアセンター待合室「みちくさ」で2月29日～3月4日、ひな祭りに合わせて利用者に甘酒が振る舞われました。

みちくさは、バスの待ち時間などに気軽に利用していただけていますが、利用者の皆さんに季節感を味わってほしいと行われたもの。みちくさにはひな人形の段飾りも飾られ、利用者の皆さんは甘酒をいただきながら、ひな祭り気分を楽しんでいました。

2月26日  
屈斜路湖などで調査・研究した成果を発表  
玉川大学の学生が調査報告



玉川大学の学生による「屈斜路湖周辺の生物調査および魚類資源への影響調査」発表会が2月26日、摩周観光文化センターで開催されました。

町と同大などを含む玉川学園は、2015年に包括連携協定を締結しています。報告会は、協定に基づいて行われたもので、同大の学生6人が、ワイン醸造用ブドウの栽培に関する研究、屈斜路湖の魚類生息環境に関する調査などについて発表を行いました。

カメラスケッチ  
広報マンが行く!!

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913(課直通)

2月17日  
戦争の悲惨さや平和の尊さを再確認  
弟子屈高1年生が戦争に関する講話を聴講



弟子屈高校(木村浩士校長)で2月17日、1年生を対象に戦争に関する外部講話が行われました。

平和教育の一環として行われたもの。講師は、戦争遺産の保護活動を行っている「釧路『負の遺産』を守る会」代表の小棚木幸子さんと、71年前に北海道空襲を経験した野瀬義昭さん。父親が軍人だった小棚木さんは、現在行っているトーチカ(防御陣地)の調査について、野瀬さんは空襲当時13歳で、どのようにして生き残ったかなど戦争当時について話し、生徒は真剣に聴き入っていました。講話の後には、平和の尊さをあらためて感じたなどの感想が聞かれました。

3月12日  
ケニアの孤児たちへの支援活動について語る  
てしかが国際交流会主催の講演会



てしかが国際交流会(池上清子会長)主催の講演会が3月12日、川湯ふるさと館で開催されました。

同会が2011年から行う国際交流イベント「もっと外国を知ろう」プログラムの一環で、今回で20回目。35人が参加しました。今回は、NPO法人「ケニアの友」理事の間瀬年一さん(登別市在住)が、ケニアの孤児院に10カ月住み込んで孤児たちの世話をした体験を語り、国際援助の在り方について参加者の皆さんも一緒に考える、よい機会となりました。

3月5日～4月30日  
生き生きとした生き物たちの命と営み  
川湯EMCで野生動物写真コンテスト入賞作品展



川湯エコミュージアムセンターの2階ギャラリーで3月5日から「第7回野生動物写真コンテスト入賞作品展」(一般財団法人自然公園財団主催、環境省など後援)が開催されています。

コンテストは、日本の豊かな自然の中で暮らす生き物たちの命と営みを、写真によって記録していこうというもの。今回は、応募総数1,302点の中から選ばれた33点が展示されています。北海道では見られない動物のシーンもありますので、ぜひ一度、ご覧になってみませんか。4月30日(日)まで開催されています。

2月20日  
地元の冬ならではの楽しみ  
和琴小児童がクロスカントリースキーに挑戦



和琴小学校(鳴海厚校長)で2月20日、クロスカントリースキー授業が行われました。

年間数回行われる土曜授業の一環として行われたものです。同校では今年度、PTAがクロスカントリースキーを購入しており、そのスキーを活用しての授業となりました。

当初、1月に予定されていましたが、荒天のため延期。この日は快晴に恵まれ、児童は地元ならではの冬の楽しみを満喫していました。

2月18日  
おいしい地場産の食材を使って  
食育調理実習に10人が参加



町主催の食育調理実習が2月18日、社会老人福祉センターで開催されました。

安全でおいしい地場産の食材をもっと食生活に取り入れてほしいと行われたもの。10人が参加しました。

講師は町の管理栄養士・石塚員可さん。メニューはそば粉の皮のギョーザです。皮に摩周そばの粉と小麦粉を使用し、具も摩周ポークのひき肉に弟子屈産のシイタケなどを使っています。皮から手作りのギョーザは皆さん、あまり作ったことがないようでしたが「もちもちした皮がおいしい」「具もジューシー」などの声が聞かれ、好評でした。

3月17日  
緊急のお産に備えて  
消防署員が妊婦搬送と分娩介助訓練



弟子屈・川湯両消防署員による妊婦搬送と分娩介助の訓練が3月17日、弟子屈消防署で行われました。

町の妊婦安心サポート事業が始まったことを受け、これまでまれであった救急車での妊婦搬送事例の増加が見込まれることから、あらためて訓練を行ったものです。

スライドを使った教養訓練の後、助産師さんの指導の下、赤ちゃんの人形を使って分娩介助の実技訓練などを実施。救急車内の限られたスペースでの物品の配置や、妊婦さんへの声掛け、出産後の処置などを確認しました。

3月16日  
暴力追放運動に多大な貢献  
南但雄さんが北海道暴力追放功労者表彰



弟子屈町暴力追放運動推進協議会副会長の南但雄さん(65歳・朝日1)が、公益財団法人北海道暴力追放センターが行う平成27年度北海道暴力追放功労者表彰を受けました。

伝達式は3月16日、弟子屈警察署で行われ、立山登弟子屈警察署長から南さんに表彰状が手渡されました。

南さんは、1986(昭和61)年2月に、弟子屈町暴力追放運動推進協議会に入会。以来30年にわたり、副会長として暴力追放運動の推進に多大な貢献をしてきました。南さんは「これからも安全・安心なまちづくりのため活動していきたい」と話しています。

2月23日  
工事や建設業に理解を関心を  
弟子屈小5年生が河川改修工事現場を見学



弟子屈小学校(佐野哲哉校長)の5年生が2月23日、栄橋下流で釧路川改修工事の現場見学を行いました。

同工事を手掛ける辻谷建設(辻谷智之代表取締役)が、川の大切さや工事の内容、建設の仕事に理解を深めてほしいと社会貢献活動として開催しているもので今年で4回目。児童は工事の概要について説明を受けた後、測量や油圧式ショベルカーの操作を体験したり、浄化剤を使った実験を見学したりしました。

2月23日  
詐欺被害を防ごう  
弟子屈防犯協会研修会を開催



弟子屈防犯協会主催(弟子屈町暴力追放運動推進協議会共催)の研修会が2月23日、町公民館講堂で行われました。

研修会では、弟子屈警察署刑事・生活安全課生活安全係の横内係長が「詐欺に遭わないための心構え」と題して講演。近隣市町村で実際にあった事件を題材に、巧妙なやり取りで被害者が現金を用意してしまう心理や、現金を受け取りに来た受け子役を逮捕するまでについて話しました。また、同課の矢島課長は「暴力団は現金のためなら何でもする。本町にも密漁の拠点があった。詐欺グループには必ず暴力団が絡んでいる。町民自ら犯罪抑制に協力してほしい」と注意を促しました。